日本産倍足類及び唇足類の分類學的研究* 6. 倍足類の 2 新種

三 好 保 德 (愛媛松山北高等學校)(1952 年 1 月 14 日受領)

著者がここに行つている多足類の分類學的研究が果して多足類の眞の自然分類の實相をとらえているものであろうか，遺憾ながらそこには少からぬ爲人的要素を含んでいるということを白狀しなければならない。そしてその 1 つは現在までに爲された先輩諸學者の最善の努力の基礎の上に如何に忠實であつても尙かつ落入るところの悲劇であつて畢竟多足類分類學それ自體が完璧の境地にまで發達していないというところに根本的な原因があるわけである。まさに問題の解明は今後にある。同じ分類學の傘下にありながら，ある 1 群の動物については所謂新分類學的檢證がなされているにかかわらず他の少からぬ群にあつてはまだ基礎的な分類學的調査さえも終つていないのに早くもその研究者を失い，又は持ち得ず，不明のまま主を求めているという有様である。かかる日本動物學界の悲しむべき跛行性を哭くことなく，分類學の仕事に同情をよせない學者があるとすれば著者はその心情を理解するに困難である。次に爲さるべき研究のために先ず日本産多足類の全貌を明らかにしなければならない。その意味においても著者のこの研究は 1 日も早く進展されなければならぬものである。後日學者によつて改正される點があればまさにそれは望むところである。

1. *Epanerchodus triramus* n. sp. (ミツマタオビヤスデ) 體長 18-20mm，體幅約 1.8mm。頭部大形，粗毛あり頸板より幅廣し。體色よごれた赤色。頭部，腹面，歩肢などは淡黄色。頸板は略半圓形，瘤隆起不鮮明，第 2 背板より幅せまし。側庇よく發達し側縁に 3 又は 4 の微鋸歯あり。側庇の前角は圓く後角は第 7 側庇から三角形にとがり後方のもの程それが著しい。第 2 背板より第 19 背板までその瘤隆起は鮮明である。胸板は毛密生，十字溝あり，歩肢にも毛多し。
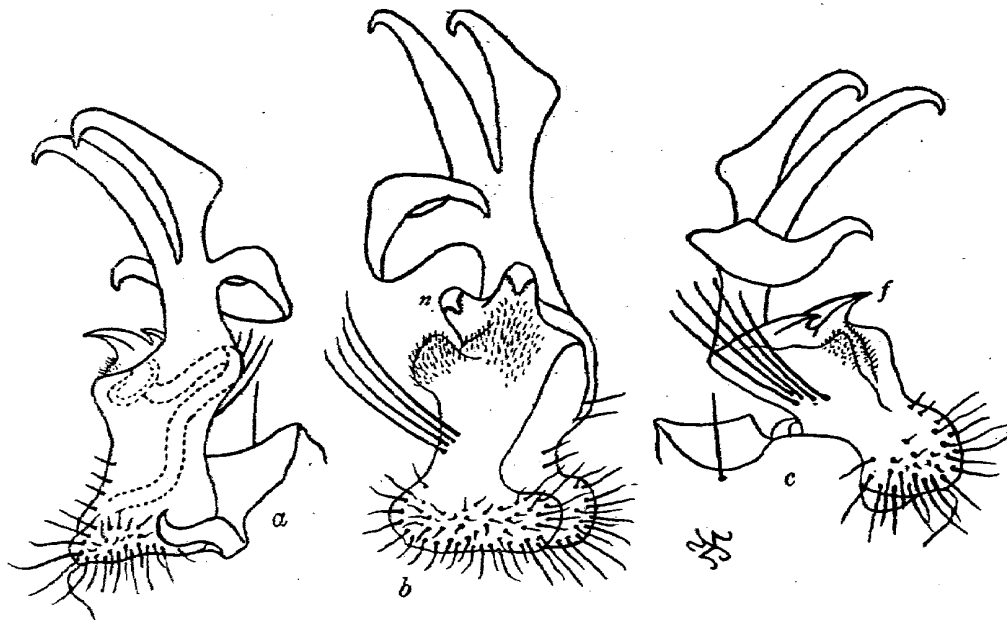
Fig. 1. Gonopoden des *Epanerchodus triramus* n. sp.

生殖肢：前腿腿節部は大形でツヅミ型。腿節突起 (f) は副枝 (n) より大形，ともに鉤爪形で伏臥している。尙腿節部の外側面には數本の長剛毛あり。脛跗節は大形，中央部で 3 枝に分れ 2 枝は少しく弓狀に曲り，1 枝は著しく彎曲している。この脛跗節の形態は同屬の他種と斷然區別出來る標徴である。産地：愛媛縣北宇和郡好藤村。

2. *Leucodesminus melancholicus* n. sp. (ノコバシロハダヤスデ) 體色は暗褐色又は灰白色，幼生は白

*この研究は文部省科學研究助成金による。
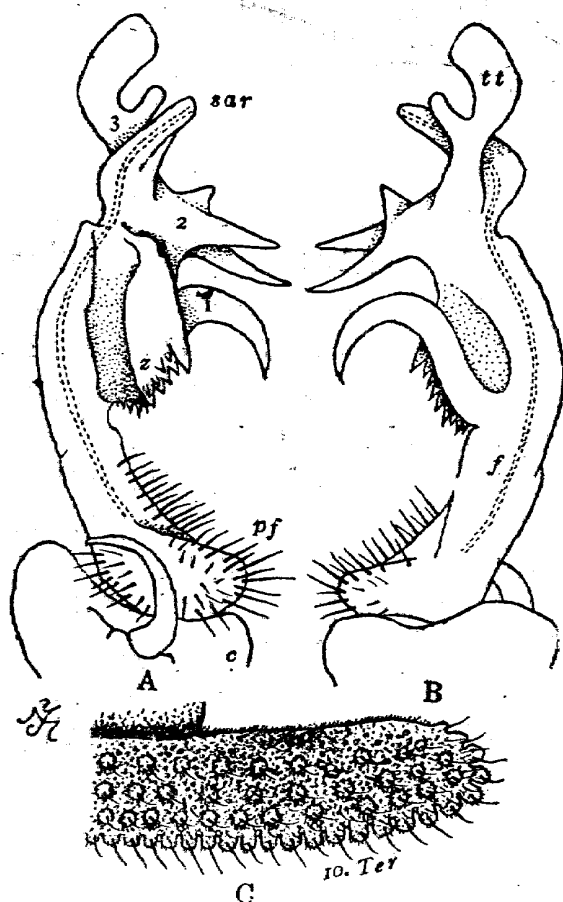
Fig. 2. Gonopoden und 10. Metazonit des *Leucodesminus melancholicus* n. sp.

色。體長 13-14mm, 幅 3.5-4mm。頭部は頸板に覆われている。觸角は棍棒狀で汚赤色。頸板は半圓形，側庇は著しく發達し，その側緣と後緣とには多くの圓い切れこみがある。後環節には 3-4 列のやや不規則な瘤隆起あり，それらは剛毛をもつている。

生殖枝: 基節は大きく球狀。前腿節部は卵形(pf)。腿節部はやや長く少し彎曲している (f)。腿節部の先には3個の大形辨片狀の分枝があり，その第1枝は鎌狀に基部の方へ曲つている。第2枝は幅が廣くさらに3個の突起に分れている。第3枝は先が2分し恰もスパナ形である。尙第 1 枝の基部には著しい鋸齒緣が發達している。又第 2 枝と第 3 枝との間には精溝枝 (sar) が突出している。この種の體色と生殖肢の形態とは同屬の *L. granulatus* TAKAKUWA から區別出來る主な點である。この新種名はこのヤスデを腐葉の下側などからとり出しても少しも動くことなく，じつと憂欝そうにしている樣を表現したものである。產地:-皿ケ嶺 (模式標品產地)，北宇和郡の好藤村及び愛治村，西宇和郡の三島村及び三瓶町，高縄山，以上愛媛縣。これら2新種の模式標品は東京科學博物館に保存せらる。

Résumé

Beitrage zur Kenntniss japanischer Myriopoden
6 Aufsatz: Ueber zwei neue Arten von Diplopoda

YASUNORI MIYOSI (Matuyama Kita Koto-Gakko)

1. *Epanerchodus triramus* n. sp. (Polydesmidae) Körperlänge 18-20mm, Breite ca 1.8mm. Farbe schmutzigrot, doch Kopf, Bäuche und Beine hell gelblich. 2.-19. Tergiten zeigen deutliche Skulpturen. Gonopoden: Präfemurofemurabschnitt gross, etwa Handtrommelförmig und die Aussenseite des Femurabschnitts trägt mehrere längere Borsten. Nebenfortsatz (n) an der Basis des Tibiotarsus ist klein und Femoralfortsatz (f) grösser als Nebenfortsatz. Beide Kralleförmig und äussererst danieder liegend. Haarpolster deutlich. Tibiotarsus gross entwickelt und teilt sich in der Mitte in 3 Äste. 1. Ast derselben ist sich stark gekrümmt. Diese Diagnosen unterscheidet *E. triramus* n. sp. klar von den übrigen bekannten Arten derselben Gattung. Fundort: Yosifuzi-Mura (Ehime-Ken).

2. *Leucodesminus melancholicus* n. sp. (Cryptodesmidae) Farbe dunkelbraun oder aschenfärbig (gereiftes Individuum), Larve weisslich im Leben. Länge 13-14mm, Breite 3.5-4mm. Kopf ganz vom Halsschild bedeckt. Seitenflügel sehr breit, dessen Seiten-und Hinterrand durch runde Buchten in viele Lappen geteilt. Metazoniten dorsal, mit 3-4 unregelmässigen Reihen von den die Borste tragenden Tuberkeln. Gonopoden: Hüfte gross und kugelig. Femur mässig lang, etwas gebogen und distal in 3 grosse lamellöse Äste geteilt, der erste, sichelförmig, basalwärts gebogen, der zweite sehr breit, mit 3 spitzigem Lappen (Fig2. A, 2), der dritte am Ende zweigeteilt, d. i. spannerförmig. Der Basalrand des 1. Astes hat viele merkliche Zähnchen (z). Ausserdem befindet sich ein Rinnenast (sar) zwischen 2. und 3. Aste. Fundort: Saraga-Mine (Ehime-Ken).